



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

2月号—No.333  
2023.1.25  
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【青藍(せいらん)】鮮やかな藍色。

明治時代に生まれた色名。「青は藍より出でて藍より青し」(青色は藍で染めるが、元の藍よりも鮮やかな青になる。弟子が師を超えることの例え)という荀子の言葉に由来する。そう思うと、色名からいろいろなイメージが広がって面白い。

## ●目次 / contents

今月のニュース	2
令和4・5年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」 財団からのお知らせ	3
「公共ホール邦楽活性化事業」令和6・7年度登録演奏家募集 令和4年度調査研究事業について	
今月の情報	4
地域通信 / アーツセンター情報	
制作基礎知識シリーズ Vol.52	10
博物館法改正	
今月のレポート	12
千葉県市原市 市原湖畔美術館 『試展—白州模写 「アートキャンプ白州」とは何だったのか』	

発行元：一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル 9F  
Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060  
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

## ●令和4・5年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」

# 神奈川県内の市町村でのアウトリーチがスタート

### 令和4・5年度 公共ホール 創造ネットワーク モデル事業



地域創造では、これまで実施してきた「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」と「公共ホール演劇ネットワーク事業」での取り組みを踏まえ、より発展的で多様な企画づくりを行える「公共ホール創造ネットワーク事業」(2カ年事業)を新たに立ち上げ、令和4・5年度にモデル事業を実施します。

この事業は、都道府県等を中心に、県および市町村等の公共ホールが共同・連携して、クラシック音楽や現代ダンス、演劇など複数ジャンルのアーティストを市町村に派遣して地域交流プログラムを実施するとともに、新たな作品を制作して公演を実施するものです。

モデル事業は、神奈川県(神奈川芸術文化財団)を中心に実施し、今年度は地域交流プログラムとして、ダンサー・振付家の柿崎麻莉子さんをリーダーに、県内4市で小学4～6年生を対象としたアウトリーチを実施します(来年度に作品創作と公演を予定)。

### ●アウトリーチプログラムづくり

神奈川芸術文化財団、参加4市、地域創造の担当者が月1回程度のペースで集まり、参加市のアウトリーチの実施状況や課題などの共有から始め、今回のアウトリーチの目的、対象者などを丁寧に検討していきました。

その後、コーディネーターの田村一行さんも加わってアーティストによるプログラムづくりを開始。9月に参加市の担当者、10月に小学生を対象にデモンストレーションを実施し、ブラッシュアップしていきました。また、アーティスト同士のオンラインミーティングを参加市に公開するなど、プログラムの制作過程に参加市が積極的

に関われるような場をつくりました。

### ●小学校でのアウトリーチ開始

アウトリーチは、12月から2月にかけて各市で4回ずつ実施。12月には相模原市、小田原市および厚木市で実施され、演劇的な要素として『人魚姫』と『美女と野獣』をモチーフに、ダンスを中心として音楽の要素も入ったプログラムに挑戦しました。

前半は、初めて人間の世界に来た人魚姫をイメージして、太陽の光、自分の手、音楽などさまざまなものに「うっとり」するワークを実施。アーティストの言葉に耳を傾け、目だけでなく、耳や手の感触でも「うっとり」を感じ取ろうとする子どもたちの姿が印象的でした。後半は、紙に描いた自分がイメージする野獣を体で表現し、さらに野獣の状態であらう、泣くなどの感情を表現するワークを行いました。

最後は、3グループに分かれ、一つのシーン(場面)をつくるクリエイションに挑戦。子どもたちから出るアイデアを大切にしながらアーティストがアドバイスをしてつくり上げました。完成した作品を発表することで、自分たちが表現したものが他の人には違うものに見えることを子どもたちも楽しんでいました。

参加した学校の先生たちからは、「自由な表現が得意ではないと思っていた子どもたちが積極的に参加し、クリエイションの場面でも意見を出していた」といった感想も聞かれました。

3月には関係者で今年度の振り返りを行い、今後の参加市の活動や団体間の連携強化などに生かしていきます。来年度はどのような作品が出来上がるか楽しみです。

写真:小学校でのアウトリーチの様子

左:小田原市立下曾我小学校(野獣になるワーク)

右:厚木市立相川小学校(子どもたちによるクリエイション)

●令和4・5年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」令和4年度実施体制

◎実施団体

神奈川県(公益財団法人神奈川芸術文化財団)

◎参加市

●相模原市(相模原市緑区役所)

●小田原市(FM小田原株式会社)

●茅ヶ崎市(公益財団法人茅ヶ崎市文化スポーツ振興財団)

●厚木市(公益財団法人厚木市文化振興財団)

◎アーティスト

●リーダー

柿崎麻莉子(ダンサー・振付家)

●アシスタント

飯森沙百合(ダンサー・振付家)、モテギミュ(ダンサー・振付家)、富岡晃一郎(俳優)

◎監督

長塚圭史(KAAT神奈川芸術劇場芸術監督)

◎コーディネーター

田村一行(大駱駝鑑踏手・振付家)

●公共ホール創造ネットワークモデル事業に関する問い合わせ

芸術環境部 栗林・前田

Tel. 03-5573-4055・4076

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### 財団からのお知らせ

#### ●「公共ホール邦楽活性化事業」令和6・7年度登録演奏家募集

公共ホール邦楽活性化事業とは、地域創造が派遣する専門家のサポートの下、オーディションで選ばれた演奏家と全国の公共ホールが、邦楽分野でのホールプログラムと参加体験型の地域交流プログラム(アクティビティ)を共に作る事業です。この事業には、「公共ホールの活性化」や「地域における芸術活動を担う人材の育成」、「日本の伝統音楽の継承発展」という目的があります。

令和6・7年度に公共ホール邦楽活性化事業を実施する演奏家を募集します。第1次選考(書類・音源審査)、第2次選考(会場審査)を経て、登録する演奏家数組を決定します。

地域の方々には邦楽の魅力を発信し、その地域で邦楽事業を継続していくための基盤づくりに興味のある演奏家のご応募をお待ちしております。また、公立文化施設等の担当者の方々には、地域で活躍するアーティストをご紹介いただければ幸いです。

#### 登録演奏家募集概要

##### ◎活動内容

コーディネーターと共に担当地域に3日間(4泊5日)程度滞り、小学校や福祉施設などで4回のアウトリーチを行い、ホールプログラム(コンサートまたは公募型ワークショップ)を行います。

##### ◎応募条件

令和6年4月1日時点で満20歳以上40歳以下の邦楽演奏家。ジャンル・楽器の種類は問いませんが、電子楽器は対象外とし、原則としてPA設備を使用せずにプログラムを組める楽器とします。

##### ◎募集数

若干名

##### ◎選考方法

第1次選考：書類と音源(YouTube)

第2次選考：演奏とトークによるプレゼンテーション(2023年6月29日(木)実施予定)

##### ◎募集要項

募集要項および応募用紙は当財団ホームページの邦楽事業ページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/04.html>

##### ◎応募締切

**2023年4月24日(月) 必着**



#### ●令和4年度調査研究事業「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果の検証と評価に関する調査研究」について

地域創造では、地域の文化・芸術活動のための環境づくりについて全国的な視点から調査、分析、研究を行っています。

今年度のテーマは、「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果の検証と評価に関する調査研究」です。自治体や公立文化施設が実施してきた教育や福祉、地域づくり等のアウトリーチやワークショップが個人の生活や公立文化施設の運営にどのように影響を与えてきたのか、効果の検証を行い、その成果を広く周知するとともに、今後の展開方法や方向性について検討してまいります。

当財団では音楽・現代ダンス・演劇のアウトリーチに積極的に取り組むとともに、調査研

究事業でも報告書「新[アウトリーチのすすめ]～文化・芸術が地域に活力をもたらすために～」を平成21年度に発行しています。前回の調査から10年以上が経過し、公立文化施設を取り巻く環境が変化していることも踏まえ、今年度再びアウトリーチをテーマに調査を行うこととなりました。

音楽・ダンス・演劇のアウトリーチを継続的に実施し、先進的な取り組みを行っている公立文化施設6館(協力館)と、有識者・専門家の方々にご協力をいただきながら、協力館で実施する小中学校のアウトリーチを対象としたアンケート調査(8月～12月実施)と、文化施設職員・学校教員等のグループインタビュー(11月実施)による調査を行ってきました。

調査結果については、後日報告書を発行予定です。発行時期や内容については、地域創造レターやホームページにてお知らせします。

●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ  
芸術環境部 森永・前田  
Tel. 03-5573-4069

●調査研究事業に関する問い合わせ  
芸術環境部 三田  
Tel. 03-5573-4068

※お詫びと訂正  
前号(1月号)に以下の誤りがございました。  
お詫びして訂正させていただきます。  
P6 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ  
美唄[運営]  
誤 NPO法人アルテピアッツァびばい  
↓  
正 認定NPO法人アルテピアッツァびばい

## 地域通信

### ●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

### ●2023年4月号情報締切

2023年2月22日(水)

### ●2023年4月号掲載対象情報

2023年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

## 北海道・東北

### ●北海道網走市

網走市立美術館

〒093-0016 網走市南6条西1丁目

Tel. 0152-44-5045 古道谷朝生

<https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/270kyoiku/040bizyutukan/>

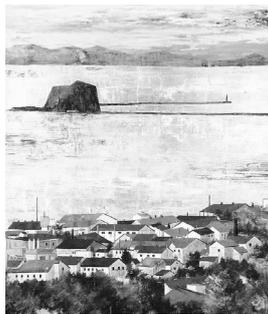
### 美術館開館50周年記念展一オ

ホーツクに還る―[長谷川誠展]

網走市出身の日本画家・長谷川誠は、美術教師として教壇に立ちながら、個展、グループ展、創画会での公募展や美術館の企画展などで作品を発表していたが、2020年に惜しくも急逝。本展は長谷川の遺作展として、本年度寄贈を受け新収蔵となった作品を中心に、美術館とオホーツク文化交流センターの2つの会場で開催し、その生涯を回顧する。

[日程] 2月25日～3月26日

[会場] 網走市立美術館



長谷川誠《遠望一帽子岩》(2001年/麻紙、岩絵具)

### ●岩手県盛岡市

盛岡市文化振興事業団

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通2-9-1

Tel. 019-621-5100 吉田真美子

<https://www.mfca.jp/shiminbunka/>

### パイプオルガンファミリー・コンサート

0歳から大人まで一緒に楽しめるパイプオルガンコンサート。2歳以下の幼児は膝上鑑賞に限り無料で鑑賞できる。今回は、盛岡市民文化ホールのオルガニ

スト・渋谷久美、打楽器奏者の江越海が『きらきら星による変奏曲』のほか、「ディズニー・ソング・メドレー」など子どもにもお馴染みの名曲を演奏。

[日程] 2月25日

[会場] 盛岡市民文化ホール

### ●山形県鶴岡市

荘銀タクト鶴岡

(鶴岡市文化会館)

〒997-0035 鶴岡市馬場町11-61

Tel. 0235-24-5188 池田恭二

<https://tact-tsuruoka.jp/>

### 0歳から入れる!親子で楽しむ 音楽会 クラリネット&ピアノ

0歳児から入場できるコンサート。鶴岡ゆかりのアーティスト(ピアノ:石黒桃子、クラリネット:樋渡彩)が世界の民謡やジャズメドレー、『ぼよよん行進曲』など子どもにもお馴染みの楽曲を演奏する。入場料はワンコイン(500円)で、小学生までは入場無料。

[日程] 3月4日

[会場] 荘銀タクト鶴岡

## 関東

### ●栃木県日光市

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内2388-3

Tel. 0288-50-1200 清水友美

<https://www.khmoan.jp/>

### 「描く」を超える

—現代絵画 制作のひみつ—

小杉放菴記念日光美術館は1990～2000年代の絵画をコレクションの一つの柱としている。この時代の作品は日本画、洋画の枠組みや、「描く」という行為を超えた作品もあることが特徴的である。本展では、「線を引く」「空間を刻む」「重ねる」「たらず」「待つ」のキーワードを軸に、日光市出身の入江観をはじめとする7名の画家の作品を展覧し、画家がどのようにそれらの作品を「描く」に至ったのか、制作の秘密や

描く行為の多様性に迫る。

[日程] 2022年11月26日～1月29日

[会場] 小杉放菴記念日光美術館

### ●栃木県宇都宮市

栃木県立美術館

〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7

Tel. 028-621-3566 木村理恵子

<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

### 「二つの栃木」の架け橋 小口一郎展 足尾鉍毒事件を描く

栃木県小山市出身の版画家・小口一郎(1914～79)は足尾鉍毒事件を主題とした作品の制作をライフワークとし、連作版画三部作として結実させた。開館50周年を記念した本展では、その連作版画全点を含む約300点で小口の生涯を回顧する。小口の連作版画による映画を上映後、田中正造・足尾銅山鉍毒事件研究者の赤上剛氏が解説を行う関連事業も開催(1月22日、2月5日、12日)。

[日程] 1月21日～3月26日

[会場] 栃木県立美術館



小口一郎《「鉍毒に追われて」より 1.治るか破るか》(1971-73年/紙、木版/小口一郎研究会蔵)

### ●群馬県太田市

太田市美術館・図書館

〒373-0026 太田市東本町16-30

Tel. 0276-55-3036 矢ヶ崎結花

<https://www.artmuseumlibraryota.jp/>

### なむはむだはむ展

『かいき!はいせつとし』

『なむはむだはむ』は、子どものアイデアを大人(プロのアーティスト)が何とか作品にするというコンセプトで、岩井秀人(作家・演出家)、森山未来(俳優・ダンサー)、前野健太(シンガーソ

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

グライター)の3名により2017年に始まったプロジェクト。本展では美術家の金氏徹平が加わり、これまでの子どもたちとのワークショップで生まれた400点の物語から、メンバー3人と金氏がそれぞれの視点で、彫刻や写真、映像、音など多様な表現手法でクリエイションを行う。

[日程] 2月18日～5月7日

[会場] 太田市美術館・図書館

### ●東京都大田区

大田区立龍子記念館

〒143-0024 大田区中央4-2-1

Tel. 03-3772-0680 木村拓也

<https://www.ota-bunka.or.jp/ryushi/>

#### 開館60周年特別展

##### 「横山大観と川端龍子」

龍子記念館開館60周年を記念して、日本画壇の重鎮・横山大観(1868～1958)と川端龍子(1885～1966)の名作から、ドラマティックな二人の交流を紹介する。大観の晩年の代表作《或る日の太平洋》や、大観に龍子、河合玉堂の3巨匠で開催した「雪月花」展出品作、後期(2月25日～)では童子の純真な姿を描いた《無我》など、約50点を展示。

[日程] 2月11日～3月12日

[会場] 大田区立龍子記念館

### ●東京都世田谷区

世田谷美術館、NPO法人アートネットワーク・ジャパン

Tel. 03-5961-5200 米原晶子

(アートネットワーク・ジャパン)

[https://note.com/sam\\_anj\\_air/](https://note.com/sam_anj_air/)

#### 世田谷美術館×アートネットワーク・ジャパン「Performance Residence in Museum 2022-23」

開館以来、建築空間や館外の自然環境を活かしてパフォーマンスプログラムを多数展開してきた世田谷美術館が、舞台芸術の活性化や次世代を担う才能の発掘、文化交流の促進などに取り組みアートネットワーク・ジャパン

と共に、若手アーティストが対象のアーティスト・イン・レジデンスプログラム。世田谷区出身・在住の作曲家・演出家の額田大志を招聘し、「ボーダレスな音」をキーワードにさまざまなリサーチや実験を行う。またリサーチや実験を参加者で行う「オープナー」、滞在報告会(3月5日)も開催予定。

[日程] 2022年11月～23年3月

[会場] 世田谷美術館

### ●東京都武蔵野市

武蔵野文化生涯学習事業団

〒180-0006 武蔵野市中町3-9-11

Tel. 0422-54-8822 佐藤初音

<https://www.musashino.or.jp/bunka/index.html>

#### ポジティブオルガン 組み立てショー

2022年3月に開催し、好評を博した、持ち運び可能なパイプオルガンであるポジティブオルガンの「解体ショー」に続き、今回は「組み立てショー」を開催。製造や調律などで22年の経験を持つオルガン建造家のマテュー・ガルニエ氏の解説を聞きながら、ポジティブオルガンが組み立てられる貴重な様子を見ることができる。組み立て後には、ホールにある巨大なパイプオルガンとのアンサンブルで、子どもも楽しめるミニコンサートを開催。

[日程] 2月18日

[会場] 武蔵野市民文化会館



解体ショーの様子

### ●横浜市

横浜みなとみらいホール

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6

Tel. 045-682-2020 新野見佳奈

<https://yokohama-minatomiraihall.jp/>

#### 第1回オルガン1アワーコンサート

1998年のホール開館以来、平日のお昼に1ドル紙幣または100円で気軽にパイプオルガンの演奏を楽しめる名物企画として親しまれている「オルガン・1ドルコンサート」。ホールリニューアルを機に、指定席で約1時間ゆったり聴けるコンサートを新たにスタート。第1回は、オルガニストの梅干野安未がパリのオルガン巡りに聴衆を誘う。初のオーバーホールでさらに磨きがかかった、“ルーシー”の愛称で親しまれているパイプオルガンの音色を気軽に楽しめる。

[日程] 2月10日

[会場] 横浜みなとみらいホール

### ●川崎市

川崎市市民ミュージアム

〒211-0052 川崎市中原区等々力1-2(休館中)

Tel. 044-754-4500 押田智寿代

<https://www.kawasaki-museum.jp/>

#### 市内巡回展「救う過去、つなぐ未来—川崎市市民ミュージアム被災後活動報告展—」

2019年の台風19号により、地下にあった収蔵庫が浸水したことで多くの収蔵品が被災した川崎市市民ミュージアム。作品の収蔵庫からの搬出、作品が劣化するのを食い止める応急処置や修復など、館の職員のみならず外部団体とも協力しながら行ってきたレスキュー活動の記録を写真や説明パネルによって紹介する。本展は市内の区役所や文化施設7カ所を巡回し、現在も休館が続く同館の現状を報告する。

[日程] 1月31日～2月5日

[会場] 多摩区役所1階アトリウム

### 北陸・中部

#### ●石川県小松市

小松市立宮本三郎ふるさと館

〒923-0982 小松市松崎町16-1

Tel. 0761-43-3032 中川成実

<https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/miyamosaburoubijutsukan/index.html>

#### ちょっとお寄りください～宮本三郎にまつわるエトセトラ～

優れたデッサン力で生涯にわたり女性や花を主題に制作した小松市出身の洋画家・宮本三郎。本展は、妻の文枝が語る三郎の人物像や結婚生活などのエピソードとともに、文枝がモデルとなった《窓辺の女》などの作品を通じて、宮本三郎をより身近な存在として感じられる内容となっている。そのほか、初公開となる《パンダー・ミモザ》や、同じく小松市出身の劇作家・北村喜八へ三郎が送った葉書も展示する。

[日程] 2022年12月10日～3月12日

[会場] 小松市立宮本三郎ふるさと館

#### ●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム

〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1

Tel. 0574-28-1110 和歌由花

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

#### 現代美術レジデンスプログラム 「風景を愛でる」日下部一司

「芸術と自然」をテーマに現代美術家を招き、滞在制作の成果を発表する展覧会。今回は関西を中心に拠点に活動している岐阜県出身の美術家・日下部一司を紹介する。日下部の近年の作品は、風景を独特の視点で捉え、古い色彩法によって仕上げられる写真である。作家は本展のために2022年8月に美濃加茂市に1週間滞在して館の周辺や市内の撮影に取り組んだ。それら新作を含め、約100点の作品を展覧する。

[日程]1月28日～2月26日  
[会場]美濃加茂市民ミュージアム



日下部一司《重力を量る》(73×54mm/ゼラチンシルバープリントに彩色)

●静岡県袋井市  
袋井市月見の里学遊館  
〒437-0125 袋井市上山梨4-3-7  
Tel. 0538-49-3400 金原千恵  
<http://www.tsukiminosato.com/>

月見の里学遊館開館20周年記念 市民音楽劇『月のうさぎ』  
開館20周年記念として始動した「市民音楽劇プロジェクト」の本公演。この音楽劇のために新設された小中学生の「市民音楽劇月のうさぎダンスチーム」や、クリスマスコンサートのために結成された小学生の「月見の里こうさぎ合唱団」、小学生と大人の「市民音楽劇のうさぎ演技チーム」が、計4回の衣装・舞台美術ワークショップを含む約1年間の準備期間を経て完成させる。プロデュース・作・演出は学遊館アドバイザーを務める菱沼妙子。  
[日程] 2月26日  
[会場] 袋井市月見の里学遊館

●名古屋市  
愛知県芸術劇場  
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2  
Tel. 052-211-7552 唐津絵理  
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>  
ダンス・セレクション2023  
実験劇場とも呼ばれる愛知県芸

術劇場小ホールで開催するミニシアターセレクション(通称ミニセレ)のひとつの公演。劇場プロデューサーが選び抜いた作品を、ショーケース形式で上演する。今回はアートファン以外にも訴える魅力を持つ橋本ロマンスと、ストリートダンスと現代アートを融合させたnouses(ヌース)によるコンテンポラリーダンスの2作品が登場。上演の機会が限られている日本のダンス界において、気鋭の振付家やダンサーに再演の場を提供している。

[日程] 2月11日  
[会場] 愛知県芸術劇場



橋本ロマンス『Pan』 ©Yulia Skogoreva

●愛知県豊田市  
豊田市文化振興財団  
〒471-0035 豊田市小坂町12-100  
Tel. 0565-31-8804 横地美恵  
<http://www.cul-toyota.com/>

とよた演劇ファクトリー第4期生修了公演『明日は来るし、明日も～近頃の3つのはなし～』  
平成30年度から始まった「とよた演劇ファクトリー」は、劇団あおきりみかん主宰の鹿目由紀をディレクターに迎え、演劇活動を通じて演出家、役者を育成し、豊田市の文化を担う人材を育成するプログラム。関連事業として子ども向けの戯曲づくり体験や、まちを題材としたフィールドワークなどを実施し、そこにプログラム受講者も参加することで、自らの発想力を広げ、演劇製作のヒントとする。今回取り上げるのは第4期生の修了公演で、上演される3演目の演出

および出演者はプログラム受講者が務める。

[日程] 2月4日、5日  
[会場] 豊田市民文化会館

●愛知県長久手市  
長久手市文化の家  
〒480-1166 長久手市野田農201

Tel. 0561-61-3411 野田悠子  
<https://bunkanoie.jp/>

午後の佇み  
「ジャズとクラシックのあいだ」

平日の昼下がり音楽とともに過ごす長久手市文化の家の人気シリーズ「午後の佇み」。今回は中部フィルハーモニー交響楽団常任客演コンサートマスター・平光真彌(ヴァイオリン)と、ジャズフェスティバル「ジャズコネクションイン名古屋」を主宰するジャズピアニストの平光広太郎、愛知にゆかりのある「二人の平光」によるクラシックとジャズのコラボレーションコンサートとなっている。

[日程] 2月17日  
[会場] 長久手市文化の家

### 近畿

●三重県津市  
三重県文化振興事業団  
〒514-0061 津市一身上津部田1234  
Tel. 059-233-1100 堤佳奈  
<https://www.center-mie.or.jp/>

青年団監修 戯曲アカデミア  
第5期マスターコース  
公開リーディング

三重の地から、プロとして通用する演劇人の育成を目指し、劇団青年団監修の下、2018年度より実践的に戯曲を学ぶ場として「戯曲アカデミア」を開講。5期目となるマスターコース(書類選考を通過した7名が受講)では、岸田戯曲賞作家・松井周を講師に迎え、受講生は約半年間の個別指導を受け、その

中から優れた戯曲2作品が松井と青年団の俳優によってリーディング上演される。上演の様子は同時ライブ配信を予定している。

[日程] 2月5日  
[会場] 三重県文化会館

●大阪府八尾市  
八尾市文化振興事業団  
〒581-0803 八尾市光町2-40  
Tel. 072-924-5111 井上恵理子  
<https://prismhall.jp/>

親と子のはじめての演劇体験  
プリズムチャームプロダクション  
シリーズ『タジタジ大どろぼうと  
オロオロ魔法使い』

子どもたちに生のお芝居そのものの魅力を知ってもらい、鑑賞を通して豊かな心を育ててもらうことを目的としてオリジナル演劇公演を実施する「プリズムチャームプロダクションシリーズ」。今回は作・演出の佃典彦(劇団B級遊撃隊)が八尾に約1カ月半滞在して、学校でのアウトリーチや稽古場見学会、公演後のバックステージツアーを開催するなど地域と交流しながら創作する。また市内の小学5年生を対象に招待公演も実施。  
[日程] 2月18日、19日  
[会場] 八尾市文化会館プリズムホール

●大阪府富田林市  
富田林市文化振興事業団  
〒584-0084 富田林市桜ヶ丘町2-8  
Tel. 0721-25-0222 辻野文崇  
<http://subaruhall.org/>

星空シアター「星空アロマ特別企画」  
「バレンタイン・ヒーリング・コンサート」

アロマの香りが立ち込めるプラネタリウム室で、癒し系の音楽を聴きながら満天の星を眺めるイベント「星空アロマ」。1999年から続く人気企画の特別編とし

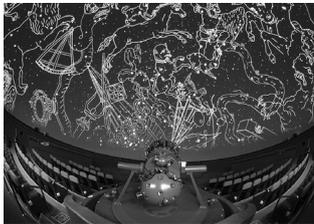
## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

て、今回は作曲家・ピアニストの高橋由紀のキーボード生演奏を、バレンタイン・スペシャルブレンドのアロマとともにお届けする。星空解説や特別映像に併せて、高橋が今回新たに作曲した星空アロマのテーマ曲もお披露目。

[日程] 2月11日

[会場] すばるホール



プラネタリウムの投映イメージ

### ●大阪府箕面市

箕面市メイプル文化財団  
〒562-0001 箕面市箕面5-11-23  
Tel. 072-721-2123 森七恵  
<https://minoh-bunka.com/>

#### 市民参加による演劇 『僕の妹サディ』

「市民参加による演劇」と題し、演出家の倉田操が、オーディションで選ばれた4名を含む一般公募で集まった参加者16名と、日本初演となる英国の劇作家アラン・エイクボーン作品の上演に挑む。参加者たちは6月から稽古を始め、A・Bの2チームに分かれてダブルキャストで上演を行う。SFのような設定と強いメッセージ性のある作品で、子どもから大人まで楽しめる公演を目指す。

[日程] 2月18日、19日

[会場] 箕面市立メイプルホール

### ●神戸市

神戸市民文化振興財団  
〒650-0017 神戸市中央区楠町4-2-2  
Tel. 078-361-7241 森本・安福  
<https://www.kobe-bunka.jp/hall/>

#### 音楽の贈りもの2023 オペラ『泣いた赤おに』

浜田廣介の児童文学『泣いた赤おに』を題材とした子どもから大人まで楽しめるオペラを上演。演出に岩田達彦を迎え、指揮に佐藤正浩、キャストは神戸市混声合唱団、演奏は神戸市室内管弦楽団でお届けする。未就学児までの無料託児サービスも利用できる。

[日程] 2月4日

[会場] 神戸文化ホール

### ●兵庫県西宮市

西宮市プレラホール  
〒663-8204 西宮市高松町4-8  
プレラにしのみや5F  
Tel. 0798-64-9485 松田類子  
<https://plelahall.com/>

#### 本格派音楽朗読劇 『スーホの白い馬』

小学2年生の国語の教科書でも馴染みが深い『スーホの白い馬』を、モンゴルの民族楽器・馬頭琴の生演奏と朗読で上演。青少年育成事業として、西宮市在住の3歳から小学6年生を先着100人無料招待するほか、舞台スクリーンに子どもたちから募った『スーホの白い馬』の絵を投影する。

[日程] 2月5日

[会場] 西宮市プレラホール

### ●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ  
〒668-0031 豊岡市大手町4-5  
アイティ7F  
Tel. 0796-24-3000 居相歩美  
<http://platz-npo.com/index.html>

#### 大駱駝艦・田村一行舞踏公演 舞踏『但馬風土記』～但馬夜話 蒐集録

大駱駝艦の田村一行を招聘し、地域の文化資源を題材としたオリジナル舞踏公演を平成29年度より継続してきた市民プラザでは今年度、劇場がプロデュースする市民舞踏団を立ち上げる。舞踏『但馬風土記』は、地域の

物語や風土、人々からインスピレーションを受けて創作されるオリジナル作品で、講師の田村一行による基礎訓練やクリエイションを経て、公演では大駱駝艦メンバーとの共演を果たす。

[日程] 2月12日

[会場] 豊岡市民プラザ

### 中国・四国

#### ●島根県松江市

しまね文化振興財団  
〒690-0087 松江市殿町158  
Tel. 0852-22-5502 山崎晋志  
<https://www.cul-shimane.jp/hall/>

#### しまね県民オペラ2023 オペラ『ラ・ボエーム』

主演キャストに地元松江市出身のアーティストを迎え、演奏は地元のアマチュアオーケストラ山陰フィルハーモニー管弦楽団が担当、合唱はこの公演に向けて公募して組織した合唱団も参加し、舞台装置や衣裳もオリジナルで製作する、島根県民会館オリジナルのオペラ公演。公演に先駆けて、衣裳に関するセミナーや、演出家による初めてオペラを鑑賞する人に向けた講座も実施される。

[日程] 2月25日、26日

[会場] 島根県民会館

#### ●島根県浜田市

浜田市教育文化振興事業団  
〒697-0016 浜田市野原町859-1  
Tel. 0855-23-8451 糸川孝一  
<https://www.hamada-kodomo-art.com/>

#### 第26回浜田子どもアンデパン ダン展

1997年より26回目となる児童美術の祭典。当初各地で行われていた児童美術展の多くが、応募された作品を審査し、賞を与えるコンクール方式であったが、子どもの美術ならではのユニークな試みを志向したいという思いから、無審査・無賞を意味する「アンデパンダン」と称し、

すべての作品に優劣をつけることなく、その創造性や表現をありのままに紹介している。アンデパンダン展は今や世界中の子どもたちを巻き込んだ国際的な展覧会として広がりを見せている。

[日程] 1月14日～2月26日

[会場] 浜田市世界子ども美術館

#### ●岡山市

夢二郷土美術館本館  
〒703-8256 岡山市中区浜2-1-32  
Tel. 086-271-1000 平松里美  
<https://yumeji-art-museum.com/>

#### 松田基コレクションⅡ 子ども学芸員が選ぶ夢二名品展 ／特別公開「山水に遊ぶ」

岡山の実業家、松田基は現在の瀬戸内市に生まれた竹久夢二の里帰りを念じて3,000点以上の作品を蒐集し、夢二郷土美術館を創設した。本展では松田が蒐集した夢二作品のほか、特別公開として竹内栖鳳、浦上春琴らの描く山水の世界を展覧する。また夢二郷土美術館では、小学生から大学生までの「子ども学芸員」が活動しており、本展では子ども学芸員が作品を選び、解説を書いた夢二作品の展示やギャラリートークも行われる。

[日程] 2022年12月6日～3月5日

[会場] 夢二郷土美術館

#### ●広島県廿日市市

はつかいち文化ホールウッドワン  
さくらびあ  
〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1  
Tel. 0829-20-0111 佐藤美穂  
<https://www.hatsukaichi-csa.net/>

#### はつかいちジュニア弦楽合奏団 “NO・ZO・MI”スプリング・フレッ シュ・コンサート2023

「音楽を通して、みんなでひとつのものを“楽しく”作り上げていく」ことを目的に、はつかいち文

化ホールを拠点に2019年6月から活動を開始した「はつかいちジュニア弦楽合奏団“NO・ZO・MI”」による1年間の締めくりのコンサート。同じくはつかいち文化ホールを活動拠点とする地域のプロ・アンサンブル「はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”」の指導で練習に励んでおり、このコンサートで日頃の成果を披露する。

[日程] 3月5日

[会場] はつかいち文化ホール  
ウッドワンさくらびあ

#### ●高知県香南市

香南市夜須公民館

〒781-5601 香南市夜須町坪井219

Tel. 0887-54-2121 山下裕矢

[https://www.city.kochi-konan.lg.jp/bunka\\_sports/shogaigakushu/kominkan/marine/index.html](https://www.city.kochi-konan.lg.jp/bunka_sports/shogaigakushu/kominkan/marine/index.html)

#### 市民参加型演劇公演

##### 『花咲く港』

高知市出身の俳優・細川貴司(TCアルプ)を迎え、一般公募により集まった出演者と共に創作する演劇公演。上映作品は戦中、戦後に活躍した劇作家・菊田一夫の代表作『花咲く港』(1943年)。太平洋戦争直前の鹿児島沖のとある孤島を舞台とした喜劇作品を基に、舞台を土佐湾沖の架空の島に置き換え、セリフを土佐弁にして上映するという「この町でしか生まれない演劇」となっている。

[日程] 2月25日、26日

[会場] 香南市夜須公民館マリンホール

#### 九州・沖縄

#### ●北九州市

北九州市芸術劇場

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11

Tel. 093-562-2655 吉松寛子

<http://q-geki.jp/>

#### 北九州芸術劇場+市民共同創作劇『君といつまでも～Re:北九州の記憶～』

北九州に暮らしてきた高齢者へのインタビューを元に、地域の若手劇作家が物語を紡ぐ「Re:北九州の記憶」。平成24年度にスタートしたこの事業では、10年間で73人の高齢者へインタビューを実施し、89本の作品が生まれた。今回はその89作の戯曲をモチーフに、シリーズの戯曲指導と構成・演出を担当してきた内藤裕敬が、地域性や歴史的エピソードを織り交ぜて新たに脚本を執筆。本事業初となる東京公演も実施(3月3日～5日:東京芸術劇場シアターイースト)。

[日程] 2月23日～26日

[会場] 北九州芸術劇場

#### ●熊本市

熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3F

Tel. 096-278-7500 池澤茉莉

<https://www.camk.jp/>

#### 坂口恭平日記

冒険家、建築家、作家、アーティスト、音楽家、躁鬱人、農夫など多様な肩書をかかざる熊本出身・在住のアーティスト・坂口恭平の創造的な日々の活動を紹介する。坂口は2020年5月から訪れた場所や見た風景を描いたパステル画をSNS上で公開してきた。本展では、その画を購入した所蔵者の好意で集められた約200点を含む約650点が展示される。また会場には一時的な坂口のアトリエが設けられ、服や椅子、ギターなど坂口がつくった物や道具、お気に入りの作品、読んできた本や画集なども並べられる。

[日程] 2月11日～4月16日

[会場] 熊本市現代美術館

#### ●大分県大分市

iichiko総合文化センター

〒870-0029 大分市高砂町2-33

Tel. 097-533-4004 藤田咲

<https://emo.or.jp/>

#### 小林道夫チェンバロリサイタル 最終章 ゴルトベルク変奏曲

バロック音楽に造詣が深く、特にバッハ演奏では世界でも高い評価を得ている小林道夫による2017年より開催しているチェンバロリサイタル。最終章となる今回は1972年から50年にわたって研究し、弾き続けたバッハ不朽の名作「ゴルトベルク変奏曲」を披露。1月14日には小林自身が説明する事前レクチャーも開催された。

[日程] 2月24日

[会場] iichiko総合文化センター

#### ●大分県竹田市

竹田市文化振興財団

〒878-0024 竹田市玉来1-1

Tel. 0974-63-4837 伊達奈都紀

<https://www.city.taketa.oita.jp/glanz/index.html>

#### 竹田版「マダム・バタフライ」プロジェクト オリジナルミュージカル『あかり、灯る』

オペラ『蝶々夫人』のモデルと言われる女性が竹田に縁があるということから、3年かけて地域の魅力や特色を掘り起こし作品創作に挑むプロジェクト。2年目となる今年度は、市内外問わず出演者を公募し、市民参加によるオリジナルミュージカルを創作する。脚本は永山智行、演出は市村啓二が務める。3年目となる2023年度にはオリジナルオペラの創作を予定。

[日程] 2月26日

[会場] 竹田市総合文化ホール グランツたけた

#### ●鹿児島県霧島市

みやまコンセール

〒899-6603 霧島市牧園町高

千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 荒木・西村

<https://miyama-conseru.or.jp/>

#### 第13回みやまスペシャルコンサート「Special BASS Concert」～低弦だってできるもん!～

ミニ・コンサートやアウトリーチ事業などに携わる「みやまコンセール協力演奏家」の企画により実施しているコンサート。今回は、低音域を担当する弦楽器、チェロとコントラバスに焦点を当て、ゲストの吉岡知広(チェロ)と名和俊(コントラバス)のデュオ「伊達LOW Strings」と協力演奏家メンバーが、ロッシェニ「チェロとコントラバスのための二重奏曲」などを演奏。低弦の魅力をたっぷりお届けする。

[日程] 2月12日

[会場] 霧島国際音楽ホール

#### ●鹿児島県鹿児島市

鹿児島市立美術館

〒892-0853 鹿児島市城山町

4-36

Tel. 099-224-3400 前野耕一

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/>

#### 小企画展

##### 「鑑賞入門 みるを楽しむ」

美術館での鑑賞の楽しみ方を提案する、所蔵作品による企画展。鑑賞が初めての人からベテランの人まで、自分の経験や知識、感性などを働かせながら「みる」ことを楽しめるように、会場内に作品と向き合うきっかけとなる「問い」を設置。「この絵では何が起きている?」などの「問い」を頼りに、自分自身と一緒に鑑賞する人と対話することで、新たな視点での鑑賞を楽しんでもらう。

[日程] 2月7日～3月19日

[会場] 鹿児島市立美術館

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp

#### ●横浜市

##### 瀬谷区民文化センターあじさいプラザ

〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷4-4-10 ライブゲート瀬谷3・4F  
Tel. 045-301-3500

<https://ajisai-plaza.hall-info.jp/>

◎2022年3月1日オープン



「ヨコハマの魅力ある西の玄関口」を目指した相模鉄道瀬谷駅前再開発事業に合わせて、利便性の高い駅前に文化芸術活動拠点として整備。愛称の「あじさいプラザ」は区の花であるアジサイにちなんだ愛称として、公募の201作品の中から選ばれた。駅直結のペDESTリアンデッキから直接入場が可能で、可動席と昇降式ステージにより平土間仕様とすることができる音楽多目的室は、音楽やダンスなど幅広いジャンルで使用が可能。あじさいをイメージした色鮮やかな床をあしらったギャラリーは、可動壁によりフレキシブルな配置が可能となっている。

今後は瀬谷区民への文化芸術の提供と地域コミュニティの形成を促し、瀬谷区らしい地域文化を育み未来へ発信することを目指している。

[オープニング事業]オープニングイベント「Mentao Tango Concert」  
[施設概要]音楽多目的室(舞台有り120席/平土間148席)、ギャラリー(2室)、会議室(3室)、練習室(2室)ほか

[設置者]横浜市  
[管理・運営者]神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体  
[設計者](株)アール・アイ・エー

#### ●大阪市

##### 大阪中之島美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1

Tel. 06-6479-0550

<https://nakka-art.jp/>

◎2022年2月2日オープン



大阪市制100周年記念事業基本構想のひとつとして建設計画が掲げられてから約40年の紆余曲折を経て開館。運営面の特徴として美・博物館では全国初のPFIを導入。土地は大阪市、建物と所蔵品は大阪市博物館機構が所有。また館長と学芸員は博物館機構から(株)大阪中之島ミュージアムに出向するという形式をとっている。建物は誰もが気軽に訪れることができる賑わいのあるオープンな屋内空間「パッサージュ」という思想を取り入れ、回遊性の高い空間になっている。コレクションは19世紀後半から今日に至る国内外の代表的な美術作品を核とし、佐伯祐三をはじめ大阪ゆかりの近代・現代美術も合わせ、6,000点超を所蔵している。

[オープニング事業]Hello! Super Collection 超コレクション展—99のものがたり—

[施設概要]展示室(4階約1,400m<sup>2</sup>、5階約1,700m<sup>2</sup>)、ホール(約300m<sup>2</sup>)、ワークショップルーム(約100m<sup>2</sup>)、多目的スペース(約200m<sup>2</sup>)

[設置者]大阪市  
[管理・運営者](株)大阪中之島ミュージアム  
[設計者](株)遠藤克彦建築研究所

#### ●奈良県天理市

##### なら歴史芸術文化村

〒632-0032 天理市杣之内町437-3

Tel. 0743-86-4420

<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>

◎2022年3月21日オープン



文化財やその修復技術、芸術文化にふれる機会を提供するとともに、食や農を通じた観光や産業の振興、賑わいの創出を目指す多機能複合施設として開村。「文化財修復・展示棟」「芸術文化体験棟」「交流にぎわい棟」「情報発信棟」の4棟と屋外体験ゾーンで構成される。

文化財修復・展示棟では日本で初めて文化財4分野(仏像等彫刻・絵画書跡等・歴史的建造物・考古遺物)の修復作業現場の通年公開を実施。芸術文化体験棟にはリサイタルや公演が可能なホールも備えており、音楽や伝統芸能などの体験プログラムを実施。そのほか滞在アーティストの制作活動公開や子どもを対象としたアートプログラムの実施など、芸術文化に親しむ環境を提供する。

国土交通省「道の駅」の登録施設でもあり、農産物直売所や伝統工芸品ショップ、県産食材を利用したレストランなど地域活性化拠点の役割も担う。

[施設概要]文化財修復・展示棟(展示室、修復工房等)、芸術文化体験棟(ホール272席、セミナールーム5室、スタジオ等)ほか  
[設置者]奈良県  
[管理・運営者]やまの道コンソーシアム  
[設計者](株)大建設計

# 70年ぶりに大幅改正された新博物館法の概要

制作基礎知識シリーズVol.52

## 博物館法改正

講師  
小林真理(東京大学教授)

### 1. 博物館法改正の背景と経緯

2022年4月15日、大幅な変更は70年ぶりとなる博物館法が改正された。施行は23年4月1日である<sup>(\*)1</sup>。

1951年に博物館法が制定された当時、200館程度であった博物館の数は現在約5,700館まで増えた。博物館数の増加に比例して博物館への入場者も増え続けており、社会において博物館に親しむ人が増えている状況がみとれる。とはいえ博物館を巡る状況はそれほど楽観的ではない。2018年に日本博物館協会によって行われた調査<sup>(\*)2</sup>によれば、日本の博物館の典型的な姿は以下のようにまとめられる。博物館の主たる施設の建設年の平均値は1979年で、老朽化が進んでいる。また常勤職員数は3名(内1名が学芸員)であり、常勤館長がいない施設は40.5%。そもそも学芸員がいない施設が16.5%ある。

博物館への社会的期待が高まっているにもかかわらず、それに対して十分応えるだけの実態を持ち得ていない施設が多い。このような状況を改善していくために、今後、博物館振興施策をどのように行っていけばいいのか。今回の博物館法改正は、そのための基盤的な整備の第一歩と言える。

### 2. 改正の概要

今回の改正のポイントは概ね3点にまとめられる。第1に新しい博物館法が社会教育法はも

とより文化芸術基本法も根拠とすることになったこと、第2に博物館の登録要件と手続きが変更になったこと、そして第3に博物館の事業について2つの事業が追加されるようになったことである。

第1は、1951年の博物館法制定時から70年を経て、博物館を取り巻く状況が変化したことを踏まえたものだ。例えば、初期に公立博物館の開設を進めてきた地方自治体も、99年に地方分権一括法<sup>(\*)3</sup>が成立し、地方分権化が進み、地方自治体みずからが自治体全体のガバナンスを強化しなければならなくなってきた。

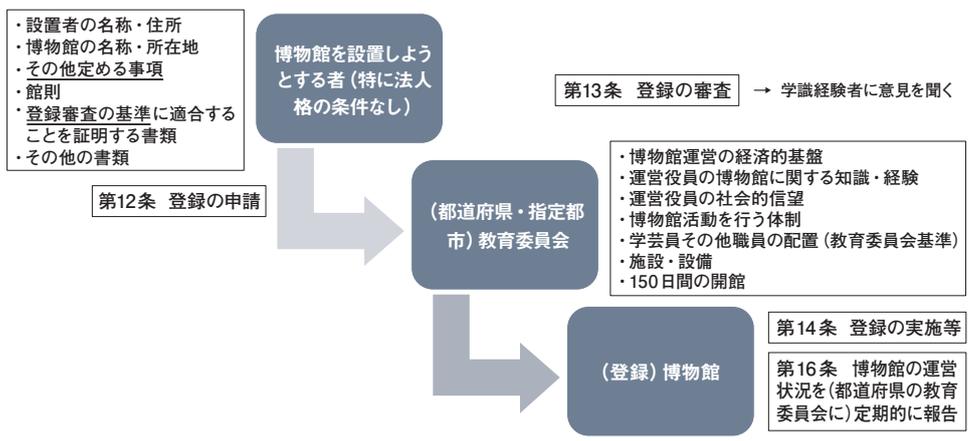
そのような中で、例えば公立博物館といえども総合的な経営力の強化が必要になっている(儲ける、利益を上げるということではない。自治体側の直接・間接の支援政策の立案も重要である)。社会全体に博物館をさまざまな視点から受容し、博物館に親しむ文化を形成していくことが、長い目で見たときに持続可能な博物館活動の下支えになる。文化芸術基本法の理念は、文化芸術の本質的な価値を社会の中で共有していくために、より広く社会の中に文化芸術の機関(施設)を位置づけていくことも目的であることから、これを根拠に置くことにより具体的な支援の可能性が広がることが期待できる。

第2は、図1のとおりで、各教育委員会、そして各施設に関わる部分であり、実質的な影響

が大きい。博物館の登録申請は都道府県および指定都市における教育委員会であることに変更はない。これまで設置者要件は、地方公共団体、一般財団法人、一般社団法人等に限定されていたが、法人類型に関わらず、要件(図1参照)を満たすものは登録をすることができるようになった。また、登録の審査に当たっては学識経験者の意見を聞くことも付加された。

博物館資料の収集・保管・展示および調査研究を行う体制等の審査基準は、これから明らかにされ

図1 改正博物館法第2章 登録



る予定の文部科学省令に則ってそれぞれの教育委員会が準備する必要がある。なお、関連の文部科学省令は2023年1月現在未公布であり、同年4月1日の新博物館法施行までには公布されると思われる。すでに登録博物館であるところは、施行から5年間は登録博物館とみなされるが、登録を継続しようとする場合は新たな基準で登録し直す必要がある。また、博物館相当施設は、旧法では雑則に位置づけられていたが、博物館法上の概念として第5章「博物館に相当する施設」に明確に位置づけられた。

そして第3は、博物館の事業として博物館資料のデジタル・アーカイブ化(どの程度まで実施するかは現在博物館部会で検討中)と、学芸員等の研修について学芸員・学芸員補以外の者を含めることが追加されたことだ。後者については、博物館における役割が複雑、高度化していく状況にある中で、学芸員だけが博物館の運営の専門家ではなく、学芸員資格は持たなくとも博物館の運営において専門的な知識や技術を必要とする職種が増えている現状に合わせた改正である。

### 3. 登録のメリット

登録博物館、博物館相当施設、その他登録・指定しない博物館という類型が残るという意味において、全体としてはわかりやすい改正とは言えない。登録制度が制定された当時は、国による保護や助成に値する博物館を選別するという意味があり、ある時期までは博物館建設費や資料輸送費等に特典があった。とはいえ、株式会社立の博物館であっても、優れた博物館活動を行っているところもある。今回の改正では、博物館活動の質的な側面に着目するとともに、それを持続可能にする経営能力・資質を一体的に考えることによって、将来に向けて博物館活動を継続し続けられるところを登録する仕組みに変え、実質的な設置者形態の緩和が行われた。

課題は、登録のメリットをどのように考えるかであろう。当初は登録することによるメリットが相応に存在した。この間、さまざまな法整備によ

て、地味かもしれないがメリットが徐々に拡大されてもきた(表1)。一方、必ずしも登録博物館や博物館相当施設を要件としていないものの、博物館活動を支援する制度も整備されてきた。これらは各関連博物館の学会や機関等が努力して獲得してきたと思われるものだ。例えば研究機関として承認された博物館や美術館が科学研究費補助金の申請代表者になれることや、文化財保護法上の公開承認施設、絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律における希少種保全動植物園等への支援などである。文化観光推進法における文化資源活用保存施設もそのようなものに含まれる。

詰まるところ、博物館側のニーズ、あるいは支援省庁側の支援したい施設とこれまでの要件が合わなくなってきたということであろう。今回の改正では、こうした齟齬を是正し、設置者形態の緩和を行うことによって、質的に博物館機能を十分に継続できる博物館に広く登録のメリットを享受してもらうことを目的としている。そして、登録されることが質的保証を意味することが浸透すれば、世界遺産制度同様の別の好効果が現れるかもしれない。

いずれにしても今後このメリットが拡充されてくることが、より登録へのインセンティブが働くことになる。文化庁にはその努力をぜひお願いしたい。

表1 旧法における博物館分類の主な利益

登録博物館	博物館相当施設	博物館類似施設
標本等として用いる物品を輸入または寄贈された場合、関税免除(関税率法第15条、同施行令第17条)		
登録美術品制度に基づく美術品の公開が可能。(美術品公開促進法第2条)	登録美術品制度に基づく美術品の公開が可能	
美術品補償制度の活用が可能(展覧会美術品損害補償法第2条)	美術品補償制度の活用が可能	
希少野生動物種の個体の譲渡し等が可能(種の保存法第12条第1項第9号、第48条の10)	希少野生動物種の個体の譲渡し等が可能	
土地等の譲渡を受けた場合、譲渡者に所得税の特別控除(租税特措法第33条他)		
施設の用に供する宅地に対する換地計画において特別の考慮(土地区画整理法第95条)	施設の用に供する宅地に対する換地計画において特別の考慮	
激甚災害からの復旧工事費等への2/3補助(公立のみ)(激甚法第16条)	激甚災害からの復旧工事費等への2/3補助(公立のみ)	激甚災害からの復旧工事費等への2/3補助(公立のみ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>設置主体の公益法人の認定が可能(私立のみ)</li> <li>地方税法等の優遇が適用・施設の新増改築の費用に充てるために行う募金について、指定寄附金の適用が可能</li> </ul>		

\*1 これまで博物館の所管は文部科学省の生涯学習関係部局に位置づけられてきたが、2018年に文化庁の任務に「博物館による社会教育の振興」部分が移された(文部科学省設置法第18条)。19年には文化審議会に博物館部会が設置され、博物館に関して常設的に検討する部会が開設された。第1期博物館部会の任務が、08年時の博物館法改正以降の検証と、それを踏まえた課題の整理であった。19年11月から開催されてきた博物館部会は、第2期博物館部会の第7回会議(21年3月24日)において、博物館部会内に設置されていた法制度ワーキンググループの検証に関する中間報告を受けた。21年の第3期博物館部会では、博物館法改正に向けての取りまとめを行い、21年12月8日に「博物館法制度の今後のあり方」が決定、12月20日に文化審議会総会で承、答申が行われた。その後庁内での対応が行われ、22年4月15日の第208通常国会において改正されることになった。

\*2 「日本の博物館総合調査報告書」(公益財団法人日本博物館協会、2020年9月)対象施設4,178館、有効回答2,314館、有効回答率55.4%。

\*3 中央集権的な行政のあり方を見直し、国と地方の役割分担を明確化し、国から地方への権限や財源の移譲を進める法律の総称。

出典：文化審議会第2期博物館部会第5回、文化庁提出資料より作成

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 千葉県市原市

#### 市原湖畔美術館

## 『試展—白州模写 「アートキャンプ白州」 とは何だったのか』



展示風景 Photo: Yuichiro Tamura  
市原湖畔美術館提供

●『試展—白州模写 「アートキャンプ白州」とは何だったのか』  
【会期】2022年10月29日～23年1月15日  
【主催・会場】市原湖畔美術館  
【特別協力】田中浜  
【ゲストキュレーター】名和晃平

#### ●「白州・夏・フェスティバル」の経緯

1985年から白州に移住していた田中浜に、剣持和夫(美術家)がお茶ノ水スクエアA館に設置していた自らの巨大彫刻作品を同地に移転したいと相談したのがきっかけ。屋外に設置した作品の表情の変化に驚いた田中が旧知の美術家を招き、作品と村を案内。「作品を美術館に搬入して展覧会が終わったら搬出する、それでいいのか。そうじゃなくて“朽ち果てるまで”というのをコンセプトにして展示をやってみたら」と誘い、「出来上がったものを持ってきて設置するのではなく、その場でつくる」「農地につくるのだから地主さんと付き合う」という方針を決定。木幡和枝(アート・プロデューサー、ジャーナリスト、美術評論家、翻訳家)がフェスティバル実行委員会代表にして事務局長となって推進会議を立ち上げ、88年に「白州・夏・フェスティバル」を始める。93年からは「アートキャンプ白州」に名称を変更し、会期を1カ月以上に延ばしてワークショップや子どものためのキャンプを展開するなど、国内外の芸術家に発表や協働の場を提供。

※「Performing Arts Network Japan」  
インタビュー参照  
[https://performingarts.jpf.go.jp/J/art\\_interview/2204/1.html](https://performingarts.jpf.go.jp/J/art_interview/2204/1.html)

\*田中は2004年から「私は場所で踊るのではなく、場所を踊る」として、日常のさまざまな「場」で即興的に踊る「場踊り」を国内外で展開。その模様などを取めたドキュメンタリー映画「名付けようのない踊り」(犬童一心監督)を22年に公開。

市原湖畔美術館で『試展—白州模写 「アートキャンプ白州」とは何だったのか』(以下、試展)が開催された。1988年、舞踊家の田中浜らによって山梨県白州町で「白州・夏・フェスティバル」として始められ、「アートキャンプ白州」「ダンス白州」と名称を変えながら続けられ、2010年に幕を閉じた芸術祭(以下、白州)のアーカイブ展だ。アート界では通例、2000年の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」をもって地域型国際展の嚆矢とする。しかし、その12年も前に、規模も内容も世界標準と呼びうる国際展が存在していた。初日の10月29日、試展の様相を取材した。

アーカイブ展とはいえ、過去の映像、写真、資料にとどまらず、ゆかりのアーティストによる作品も展示されていた。ゲストキュレーターは、学生のときにボランティアとして白州に参加していた現代アーティストの名和晃平。出展作家は、日本の現代アート史に名を刻む榎倉康二、遠藤利克、剣持和夫、高山登、原口典之若き日の白州の常連に加え、藤崎了一、藤元明らも特別参加。取材時には関係者によるシンポジウムが、会期中には田中による「場踊り」(\*)や巻上公一らによるコンサートも行われた。

白州は「ものすごい数の人たちが関わって自主的につくられた芸術祭だ」と、田中はシンポジウムで強調していた。1985年にこの地に移住した田中は、踊りと農業に従事し、地元の人々との関係を育みつつ芸術祭の運営を続けた。滞在創作をベースとして、踊りや音楽、彫刻を中心とする美術の展示を軸に、映画の上映、演劇、民俗芸能、落語、ボードビルなどの上演、さらにレクチャーやワークショップも行われた。

若いころから世界の芸術家や知識人と協働してきた田中や、実行委員会代表にして事務局長を務めた木幡和枝の広い人脈もあって、海外から参加した表現者も少なくない。アンナ・ハルプリン、シモーヌ・フォルティ、ミルフォード・グレイヴス、セシル・テイラー、デレク・ベイリー、リチャード・セラ、カレル・アペル、スーザン・ソングラ著名人が名を連ねる。

試展を企画した市原湖畔美術館の館長は大地の芸術祭を創設し、現在では瀬戸内国際芸術祭など複数の芸術祭で総合ディレクターを務める北川フラムだ。北川は、白州とは直接関わりがなかったと言うが、「いろんな意味で資料がまとまっておらず、それをやるのは美術館の仕事だろうと思っていた」と言い、「地球環境の崩壊、グローバルな金融資本主義の倫理性のない巨大怪獣化(中略)は、1990年時に比べてより救いがなくなっている。そんな現在から見て(中略)白州は過去のものとは思えないリアリティを持っている。私はそこから学びたい」と図録に綴っている。

確かに白州は、そうした状況に敏感に反応した芸術祭だった。今回展示されていた当時のインタビュー映像の中で、木幡は芸術祭を始めたのは自分たち自身のため、「自らの起源地、つまり自然環境への感受性を、我々の生態の一端を失わないため」だと述べていて、そこには今につながる予兆がある。

試展では、村祭りのような芸術祭の様相を記録したチャーリー・スタイナーらによる映像が展示されていたが、こうした映像が残っていたのは幸運だった。限りなく手づくりに近いがゆえに、記録や資料の保存が容易であったはずはなく、公立美術館が残されたものを「美術館の仕事」として取りまとめた意義は大きい。

名和は、白州で一流の芸術家がどのように作品を制作するか(そしてどのように酔っぱらって激論を交わし、殴り合い、仲直りするか)をつぶさに見た。シンポジウムでは「白州の体験はずっと自分の中に残っていて、折に触れて思い出す。今は建築や舞台にも関わっているが、すべての原点に白州がある」と語っている。

個人的な情熱に端を発した白州のような芸術祭は、今では簡単には成立しないだろう。若い世代がこうした体験をする機会も激減するかもしれない。だとすればせめて、追体験できるよう、これから開催されるアート展や芸術祭のできるだけ詳細な資料保存を望みたい。アーカイブなくして次代への継承はありえない。

(ICA京都「REALKYOTO FORUM」編集長・小崎哲哉)